

学校コード F128310108954

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

**認可**

関西国際大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）

注2

## 【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人濱名山手学院

令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 学長室

職名・氏名

タントカチョウ イシカヒロアキ  
担当課長・石川裕章

電話番号

0794-84-3500

（夜間）

0794-84-3500

e-mail

[pres-sec@kuins.ac.jp](mailto:pres-sec@kuins.ac.jp)

# 目次

## 看護学研究科

＜看護学専攻博士課程＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等	19
7. その他全般的事項	20

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人濱名山手学院

## (2) 大学名

関西国際大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒673-0521

兵庫県三木市志染町青山1-18

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ハマアツシ) 濱名 篤 (平成18年6月)		
学長	(ハマアツシ) 濱名 篤 (平成17年4月)		
研究科長	(タカミザワ エミコ) 高見沢 恵美子 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)  
令和4年度に報告する内容 → (4)  
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員		
看護学研究科 看護学専攻 博士課程 博士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	3年	2人	年次 人	6人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人	人	人	人	2 ( - ) [ - ]	2 ( - ) [ - ]	2 ( ) [ ]		1.16倍	—	
志願者数					5 (-) [0]	2 (-) [0]	2 (-) [0]				
受験者数					5 (-) [0]	2 (-) [0]	2 (-) [0]				
合格者数					3 (-) [0]	2 (-) [0]	2 (-) [0]				
B 入学者数					3 (-) [0]	2 (-) [0]	2 (-) [0]				
入学定員超過率 B/A					1.5	1	1				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年			令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期
1年次			3 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	2 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	2 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )
2年次					3 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	2 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )
3年次							2 [ - ] ( - )	[ - ] ( - )
4年次								
計			3 [ - ] ( - )		5 [ - ] ( - )		6 [ - ] ( - )	

・ 令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	3人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	0人	0人	
令和3年度	5人	1人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	1人	0人	経済的困窮
			令和3年度	0人	0人	
令和4年度	6人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	0人	0人	
			令和4年度	0人	0人	
合計		1人		1人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{5} = \boxed{20} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護学研究方法論	1春	2			2						兼1
	心理学研究方法応用論(看護学的研	1秋		2		2						
	看護学教育論	1夏	2									兼2
	看護学教育演習	1秋		2		6						
	小計(4科目)	-	4	4	0	8	0	0	0	0	0	兼3
専門科目	療養支援看護学	療養支援看護学特論	1春		2		1					
		小計(1科目)	-	0	2	0	1	0	0	0	0	-
	家族支援看護学	家族支援看護学特論	1春		2		3					
		小計(1科目)	-	0	2	0	3	0	0	0	0	-
	生活支援看護学	生活支援看護学特論	1春		2		2					
		小計(1科目)	-	0	2	0	2	0	0	0	0	-
特別研究	特別研究Ⅰ	1春~2春	4			11	1					
	特別研究Ⅱ	2夏~3冬	4			11	1					
	小計(2科目)	-	8	0	0	11	1	0	0	0	-	
合計(9科目)		-	12	10	0	11	1	0	0	0	0	兼3
卒業要件及び履修方法												
必修科目として、共通科目として4単位、特別研究より8単位、選択必修科目として専門科目より2単位の合計14単位を修得し、修了要件を満たすこと												

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護学研究方法論	1春	2			2						兼1
	心理学研究方法応用論(看護学的研	1秋		2		2						
	看護学教育論	1夏	2									兼2
	看護学教育演習	1秋		2		7						
	小計(4科目)	-	4	4	0	10	0	0	0	0	0	兼3
専門科目	療養支援看護学	療養支援看護学特論	1春		2		1					
		小計(1科目)	-	0	2	0	1	0	0	0	0	-
	家族支援看護学	家族支援看護学特論	1春		2		3					
		小計(1科目)	-	0	2	0	3	0	0	0	0	-
	生活支援看護学	生活支援看護学特論	1春		2		2					
		小計(1科目)	-	0	2	0	2	0	0	0	0	-
特別研究	特別研究Ⅰ	1春~2春	4			12						
	特別研究Ⅱ	2夏~3冬	4			12						
	小計(2科目)	-	8	0	0	12	0	0	0	0	-	
合計(9科目)		-	12	10	0	12	0	0	0	0	0	兼3
卒業要件及び履修方法												
必修科目として、共通科目として4単位、特別研究より8単位、選択必修科目として専門科目より2単位の合計14単位を修得し、修了要件を満たすこと												

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護学研究方法論	1春	2			2						兼1
	心理学研究方法応用論(看護学的研究)	1秋		2		1						
	看護学教育論	1夏	2									兼2
	看護学教育演習	1秋		2		7						
	小計(4科目)		4	4	0	9	0	0	0	0	0	兼3
専門科目	療養支援看護学特論	1春		2		1						
	小計(1科目)	-	0	2	0	1	0	0	0	0	-	
	家族支援看護学特論	1春		2		3						
	小計(1科目)	-	0	2	0	3	0	0	0	0	-	
	生活支援看護学特論	1春		2		2						
	小計(1科目)	-	0	2	0	2	0	0	0	0	-	
特別研究	特別研究Ⅰ	1春~2春	4			10	1					
	特別研究Ⅱ	2夏~3冬	4			10	1					
	小計(2科目)	-	8	0	0	10	1	0	0	0	-	
合計(9科目)		-	12	10	0	10	1	0	0	0	0	兼3
卒業要件及び履修方法												
必修科目として、共通科目として4単位、特別研究より8単位、選択必修科目として専門科目より2単位の合計14単位を修得し、修了要件を満たすこと												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護学研究方法論	1春	2			2						兼1
	心理学研究方法応用論(看護学的研究)	1秋		2		1						
	看護学教育論	1夏	2									兼2
	看護学教育演習	1秋		2		6						
	小計(4科目)		4	4	0	7	0	0	0	0	0	兼3
専門科目	療養支援看護学特論	1春		2		1						
	小計(1科目)	-	0	2	0	1	0	0	0	0	-	
	家族支援看護学特論	1春		2		3						
	小計(1科目)	-	0	2	0	3	0	0	0	0	-	
	生活支援看護学特論	1春		2		2						
	小計(1科目)	-	0	2	0	2	0	0	0	0	-	
特別研究	特別研究Ⅰ	1春~2春	4			10	1					
	特別研究Ⅱ	2夏~3冬	4			10	1					
	小計(2科目)	-	8	0	0	10	1	0	0	0	-	
合計(9科目)		-	12	10	0	10	1	0	0	0	0	兼3
卒業要件及び履修方法												
必修科目として、共通科目として4単位、特別研究より8単位、選択必修科目として専門科目より2単位の合計14単位を修得し、修了要件を満たすこと												



- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。  
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【令和2年度】**

担当教員の退職により、心理学研究方法応用論(看護学的研究)の担当教員を教授2から教授1に変更  
 担当教員の退職により、特別研究Ⅰの担当教員を教授11、准教授1から、教授10、准教授1に変更  
 担当教員の退職により、特別研究Ⅱの担当教員を教授11、准教授1から、教授10、准教授1に変更

**【令和3年度】**

担当教員の補充により、看護学教育演習の担当教員を教授6から教授7に変更

**【令和4年度】**

担当教員の補充により、特別研究の担当教員を教授10人から教授12人に変更

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
4 科目	5 科目	0 科目	9 科目	4 科目 [ ]	5 科目 [ ]	0 科目 [ ]	9 科目 [ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

未開講科目及び廃止科目無し
---------------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{9} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	神戸山手大学現代社会学部設置者変更による増(令2) 財産目録との整合させるための修正(令2) 運動用地は校舎敷地と別地(徒歩20分)			
	校舎敷地	34,542 m <sup>2</sup> <del>9,150.6m<sup>2</sup></del>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	34,542 m <sup>2</sup> <del>9,150.6m<sup>2</sup></del>				
	運動場用地	37,019 m <sup>2</sup> <del>38,913 m<sup>2</sup></del> <del>48,543.3m<sup>2</sup></del>	33,820m <sup>2</sup> <del>0 m<sup>2</sup></del>	0 m <sup>2</sup>	70,839 m <sup>2</sup> <del>72,733m<sup>2</sup></del> <del>48,543.3m<sup>2</sup></del>				
	小 計	71,561m <sup>2</sup> <del>73,455m<sup>2</sup></del> <del>57,693.8m<sup>2</sup></del>	33,820m <sup>2</sup> <del>0 m<sup>2</sup></del>	0 m <sup>2</sup>	105,381m <sup>2</sup> <del>107,275m<sup>2</sup></del> <del>57,693.8m<sup>2</sup></del>				
	そ の 他	23,769m <sup>2</sup> <del>25,068.5m<sup>2</sup></del>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	23,769m <sup>2</sup> <del>25,068.5m<sup>2</sup></del>				
	合 計	95,330m <sup>2</sup> <del>97,224m<sup>2</sup></del> <del>82,762.3m<sup>2</sup></del>	33,820m <sup>2</sup> <del>0 m<sup>2</sup></del>	0 m <sup>2</sup>	129,150 m <sup>2</sup> <del>131,044m<sup>2</sup></del> <del>82,762.3m<sup>2</sup></del>				
(2) 校舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	神戸山手大学現代社会学部設置者変更による増(令2)			
		56,099m <sup>2</sup> <del>31,536.95m<sup>2</sup></del> ( 56,099m <sup>2</sup> ) <del>( 31,536.95m<sup>2</sup> )</del>	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	56,099m <sup>2</sup> <del>31,536.95m<sup>2</sup></del> ( 56,099m <sup>2</sup> ) <del>( 31,536.95m<sup>2</sup> )</del>				
(3) 教室等		講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
		19 室	53 室	14 室	2 室 (補助職員 5人)	0 室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		専任教員1名就任辞退の為(令2) 専任教員採用のため(令4)			
		看護学研究科博士後期課程		12 11 12 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	保健医療学部との共用含む	
	看護学研究科博士後期課程	22,500 [550]	135 [17]	3,500 [2,000]	700	6,520	51		
	計	22,500 [550]	135 [17]	3,500 [2,000]	700	6,520	51		
(6) 図書館		面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		神戸山手大学現代社会学部設置者変更による増(令2) 神戸山手キャンパス図書館改修による変更(令4)		
		3,547m <sup>2</sup> <del>3,204m<sup>2</sup></del> <del>2,048.00m<sup>2</sup></del>		486 415 291	344,833冊 <del>376,1330冊</del> <del>214,830冊</del>				
(7) 体育館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要		神戸山手大学現代社会学部設置者変更による増(令2)			
		3,115m <sup>2</sup> <del>1,363.77m<sup>2</sup></del>		テニスコート5面 フットサルコート1面					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費は大学全体、図書購入費は電子ジャーナル、データベース、その他の経費を含む
		教員1人当り研究費等	261千円	261千円	図書購入費	23,271千円	23,271千円	23,271千円	
	共同研究費等	7,120千円	7,120千円	設備購入費	34,281千円	34,281千円	34,281千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,100千円	900千円	900千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、法人内資産移動などを運営費に充当する。							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	関西国際大学						学生募集停止学科数	4	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
心理学部						1.1	1.08				
経営学科	4	-	-	-	学士(経営学)	-	-		平成23年	兵庫県三木市志染町青山1丁目18番	令和3年4月名称変更 平成31年4月募集停止
心理学科	4	125	-	500	学士(行動科学)	0.99	1.08		平成19年	兵庫県神戸市中央区諏訪山町3番1号	令和3年4月名称変更
教育学部						0.92	0.72				
教育福祉学科	4	150	-	600	学士(教育福祉学)	0.92	0.72		平成19年	兵庫県尼崎市潮江1丁目3番23号	
英語コミュニケーション学科	4	-	-	-	学士(英語学)	-	-		平成19年		平成31年4月募集停止
経営学部											
経営学科	4	175	3年次20	740	学士(経営学)	1.11	1.12	令和3年	平成31年	兵庫県三木市志染町青山1丁目18番	令和3年4月定員増
国際コミュニケーション学部						0.83	0.48				
英語コミュニケーション学科	4	75	0	300	学士(英語学)	0.88	0.62	令和3年	平成31年	兵庫県神戸市中央区諏訪山町3番1号	
観光学科	4	80	-	320	学士(観光学)	0.52	0.35		令和3年	兵庫県神戸市中央区諏訪山町3番1号	
保健医療学部						0.95	1.15				
看護学科	4	100	0	400	学士(看護学)	0.95	1.15	令和2年	平成25年	兵庫県三木市志染町青山1丁目18番	令和2年4月定員増
現代社会学部						-	-				
観光学科	4	-	-	-		-	-				令和2年4月設置者変更 令和3年4月学生募集停止
総合社会学科	4	-	-	-		-	-				令和2年4月設置者変更 令和3年4月学生募集停止
社会学部						0.66	0.54				
社会学科	4	100	-	400	学士(学術)	0.66	0.54		令和3年	兵庫県神戸市中央区諏訪山町3番1号	
大学全体	-	805	30	3260		0.83	0.98		-		
大学の名称	関西国際大学大学院						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
人間行動学研究科									平成17年		
人間行動学専攻	2	8	-	16	修士(人間行動学)	0.63	0.625		平成17年	兵庫県三木市志染町青山1丁目18番	
臨床教育学専攻	2	8	-	16	修士(臨床教育学)	1.13	1		平成26年	兵庫県尼崎市潮江1丁目3番23号	
看護学研究科											
看護学専攻											
博士前期	2	6	-	12	修士(看護学)	0.42	0.67		平成27年	兵庫県三木市志染町青山1丁目18番	
博士後期	3	2	-	6	博士(看護学)	1.17	1		令和2年		
大学院全体	-	24	-	50		1.01	0.79				

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。  
 (専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。  
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。  
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。  
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学研究科博士後期課程>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

【令和3年度】

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	岡光 京子 (68) <令和2年4月> 博士(看護学)	特別研究 I 特別研究 II	専	教授	岡光 京子 (69) <令和2年4月> 博士(看護学)	特別研究 I 特別研究 II	専	教授	岡光 京子 (70) <令和2年4月> 博士(看護学)	特別研究 I 特別研究 II
専	教授	高見澤 恵美子 (61) <令和2年4月> 博士(看護学)	看護学研究方法論※ 看護学教育演習 療養支援看護学特論 特別研究 I 特別研究 II	専	教授	高見澤 恵美子 (61) <令和2年4月> 博士(看護学)	看護学研究方法論※ 看護学教育演習 療養支援看護学特論 特別研究 I 特別研究 II	専	教授	高見澤 恵美子 (62) <令和2年4月> 博士(看護学)	看護学研究方法論※ 看護学教育演習 療養支援看護学特論 特別研究 I 特別研究 II
専	教授	森 一恵 (57) <令和2年4月> 博士(看護学)	特別研究 I 特別研究 II	専	教授	森 一恵 (57) <令和2年4月> 博士(看護学)	特別研究 I 特別研究 II	専	教授	森 一恵 (58) <令和2年4月> 博士(看護学)	特別研究 I 特別研究 II
専	教授	Walsh Kenneth David (62) <令和2年4月> Doctor of Philosophy (PhD), Bachelor of Nursing (豪州)	特別研究 I 特別研究 II	専	教授	Walsh Kenneth David (62) <令和2年4月> Doctor of Philosophy (PhD), Bachelor of Nursing (豪州)	特別研究 I 特別研究 II				
専	教授	遠藤 俊子 (68) <令和2年4月> 博士(医科学)	看護学教育演習 家族支援看護学特論※ 特別研究 I 特別研究 II	専	教授	遠藤 俊子 (68) <令和2年4月> 博士(医科学)	看護学教育演習 家族支援看護学特論※ 特別研究 I 特別研究 II	専	教授	遠藤 俊子 (69) <令和2年4月> 博士(医科学)	看護学教育演習 家族支援看護学特論※ 特別研究 I 特別研究 II
専	教授	中島 登美子 (67) <令和2年4月> 博士(看護学)	看護学研究方法論※ 看護学教育演習 家族支援看護学特論※ 特別研究 I 特別研究 II	専	教授	中島 登美子 (67) <令和2年4月> 博士(看護学)	看護学研究方法論※ 看護学教育演習 家族支援看護学特論※ 特別研究 I 特別研究 II	専	教授	中島 登美子 (68) <令和2年4月> 博士(看護学)	看護学研究方法論※ 看護学教育演習 家族支援看護学特論※ 特別研究 I 特別研究 II
専	教授	松原 まなみ (61) <令和2年4月> 博士(歯学)	看護学教育演習 家族支援看護学特論※ 特別研究 I 特別研究 II	専	教授	松原 まなみ (61) <令和2年4月> 博士(歯学)	看護学教育演習 家族支援看護学特論※ 特別研究 I 特別研究 II	専	教授	松原 まなみ (62) <令和2年4月> 博士(歯学)	看護学教育演習 家族支援看護学特論※ 特別研究 I 特別研究 II
専	教授	沼本 教子 (71) <令和2年4月> 博士(保健学)	看護学教育演習 家族支援看護学特論※ 特別研究 I 特別研究 II	専	教授	沼本 教子 (71) <令和2年4月> 博士(保健学)	看護学教育演習 家族支援看護学特論※ 特別研究 I 特別研究 II	専	教授	沼本 教子 (72) <令和2年4月> 博士(保健学)	看護学教育演習 家族支援看護学特論※ 特別研究 I 特別研究 II
専	教授	松田 宣子 (70) <令和2年4月> 博士(医学)	看護学教育演習 家族支援看護学特論※ 特別研究 I 特別研究 II	専	教授	松田 宣子 (70) <令和2年4月> 博士(医学)	看護学教育演習 家族支援看護学特論※ 特別研究 I 特別研究 II	専	教授	松田 宣子 (71) <令和2年4月> 博士(医学)	看護学教育演習 家族支援看護学特論※ 特別研究 I 特別研究 II

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	坂中 尚哉 (46) <令和2年4月> 博士(学術)
		心理学研究方法応用論(看護学的研究)※ 特別研究 I 特別研究 II
専任	教授	堀尾 強 (63) <令和2年4月> 博士(学術)
		心理学研究方法応用論(看護学的研究)※ 特別研究 I 特別研究 II
専任	准教授	井上 久美代 (62) <令和2年4月> PhD in Nursing PhD in Public Health (豪州)
		特別研究 I 特別研究 II
兼任	講師	岡田 彩子 (55) <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護学教育論※
兼任	講師	グレッグ 美鈴 (63) <令和2年4月> Ph. D. in nursing(米国)
		看護学教育論※
兼任	講師	今野 理恵 (55) <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護学教育論※

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	堀尾 強 (63) <令和2年4月> 博士(学術)
		心理学研究方法応用論(看護学的研究)※ 特別研究 I 特別研究 II
専任	准教授	井上 久美代 (62) <令和2年4月> PhD in Nursing PhD in Public Health (豪州)
		特別研究 I 特別研究 II
兼任	講師	岡田 彩子 (55) <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護学教育論※
兼任	講師	グレッグ 美鈴 (63) <令和2年4月> Ph. D. in nursing(米国)
		看護学教育論※
兼任	講師	今野 理恵 (55) <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護学教育論※

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	堀尾 強 (64) <令和2年4月> 博士(学術)
		心理学研究方法応用論(看護学的研究)※ 特別研究 I 特別研究 II
専任	准教授	井上 久美代 (63) <令和2年4月> PhD in Nursing PhD in Public Health (豪州)
		特別研究 I 特別研究 II
専任	教授	齋藤 益子 (72) <令和2年7月> 博士(医学)
		看護学教育論 特別研究 I 特別研究 II
兼任	講師	岡田 彩子 (55) <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護学教育論※
兼任	講師	グレッグ 美鈴 (63) <令和2年4月> Ph. D. in nursing(米国)
		看護学教育論※
兼任	講師	今野 理恵 (55) <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護学教育論※

【令和4年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	齋藤 益子 (73) <令和2年7月> 博士(医学)
		看護学教育論 特別研究 I 特別研究 II
専任	教授	中島 通子 (65) <令和3年7月> 博士(保健看護学)
		看護学教育論 特別研究 I 特別研究 II
専任	教授	山本 真由美 (65) <令和4年4月> 博士(医学)
		心理学研究方法応用論(看護学的研究)※ 特別研究 I 特別研究 II
専任	教授	鳥居 深雪 (63) <令和4年4月> 博士(医学)
		心理学研究方法応用論(看護学的研究)※ 特別研究 I 特別研究 II
兼任	講師	岡田 彩子 (56) <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護学教育論※
兼任	講師	グレッグ 美鈴 (64) <令和2年4月> Ph. D. in nursing(米国)
		看護学教育論※
兼任	講師	今野 理恵 (56) <令和2年4月> 博士(看護学)
		看護学教育論※

(1) ②担当教員表に関する変更内容

**【令和2年度】**

・坂中教授就任辞退。オムニバス科目である「心理学研究方法応用論（看護学的研究）」の坂中教授担当部分については堀尾教授が担当する（令和2年6月AC申請予定）。なお、必修科目である「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」については令和2年3月AC教員審査によって他に2名の教員を申請している。

**【令和3年度】**

・Walsh Kenneth David 教授退任。必修科目である「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」については、当該分野に他の教員がいるため問題はない。Walsh Kenneth David 教授退任に伴い、新たに中島 通子教授を採用し、現在教員審査に諮っている。

**【令和4年度】**

・井上 久美代 准教授退任。必修科目である「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」については、当該分野に他の教員がいるため問題はない。  
・堀尾 強教授退任。後任として、鳥居深雪教授、山本真由美教授を採用した。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。  
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
6	4	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
11	1	0	0	12	0	12	0	0	0	12	0
(10)	(1)	(0)	(0)	(11)	(0)						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
11	1	0				12	0	0			
(10)	(1)	(0)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
12	0	0	0	12	0	12	0	0	0	12	0
[1]	[Δ1]	[ ]	[ ]	[0]	(0)	[1]	[Δ1]	[ ]	[ ]	[0]	(0)
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
12	0	0				12	0	0			
[1]	[Δ1]	[ ]				[1]	[Δ1]	[ ]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）  
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定 年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員のう ち、定年を延長して 採用している教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員のう ち、定年を延長して 採用する教員数
65	8	8
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{12}{12} = 100\%$$

数式が入力されています。

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{8}{12} = 66.66\%$$

数式が入力されています。

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \#DIV/0!\%$$

数式が入力されています。

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。



(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	坂中 尚哉	R2.3	選択	心理学研究方法論 / 看護学的研究	③	R2.3自己都合退職による就任辞退(2)			
				必修	特別研究 I	③				
				必修	特別研究 II	③				
合計 (D)			後任補充状況の集計 (E)							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
1	人	必修	2	科目	必修	0	科目	必修	2	科目
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	3	科目	計	0	科目	計	3	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	Walsh Kenneth David	R3.3	必修	特別研究 I	③	R3.3自己都合退職による就任辞退(3)			
				必修	特別研究 II	③				
2	准教授	井上 久美代	R3.6	必修	特別研究 I	①	R3.6自己都合退職による就任辞退(4)			
				必修	特別研究 II	①				
合計 (F)			後任補充状況の集計 (G)							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
2	人	必修	2	科目	必修	0	科目	必修	2	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	2	科目	計	0	科目	計	2	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
3	人	必修	4	科目	必修	0	科目	必修	4	科目
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	1	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	5	科目	計	0	科目	計	5	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{3}{12} = \boxed{25} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1	教授	堀尾 強	選択	心理学研究方法応用論(看護学的研究)	①	定年による退職(4)	
			必修	特別研究Ⅰ	①		
			必修	特別研究Ⅱ	①		
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
1	人	必修	2 科目	必修	2 科目	必修	0 科目
		選択	1 科目	選択	1 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	3 科目	計	3 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員が担当する(している)場合は「①」</li> <li>・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」</li> <li>・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|--|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

家庭の事情による辞任であり、大学として遺留はしたが辞退となった。当該教員が担当している特別研究については、他に担当者があるが、教員組織を成立させるため、現在後任教員についてAC教員審査にかけている状況にある。学生に対しては、当該教員の退職については、ガイダンス等で周知している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
認可時  (令和元年)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること  遵守事項	関西国際大学定年規程第2条により、大学教員の定年は65歳と規定されているが、関西国際大学特遇教育職員規程第2条において、教育活動上特に必要と認める者で65歳以上75歳未満の特遇教育職員をおく制度を設けており、完成年度までに満65歳を超える教員についてはこの規程が適用される。本課程開設にあたって、完成年度までに75歳を超える教授はいない。	完成年度までに満65歳を超える教員の再任については、優れた研究業績や教育上の業績がある場合、担当看護領域に的確な後任者がいない場合、その他、該当者の人格・意思・健康状態等を総合的に判断し決定する。なお、完成年度後の後任計画としては、本学在籍教員等を充当、または新規採用者を募集していく過程において、年齢構成の適正化を図っていく予定である。
設置計画履行状況調査時  (令和2年)	定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想を策定し、着実に履行すること。  是正意見	関西国際大学定年規程第2条により、大学教員の定年は65歳と規定されているが、関西国際大学特遇教育職員規程第2条において、教育活動上特に必要と認める者で65歳以上75歳未満の特遇教育職員をおく制度を設けており、完成年度までに満65歳を超える教員についてはこの規程が適用される。本課程開設にあたって、完成年度までに75歳を超える教授はいない。	完成年度までに満65歳を超える教員の再任については、優れた研究業績や教育上の業績がある場合、担当看護領域に的確な後任者がいない場合、その他、該当者の人格・意思・健康状態等を総合的に判断し決定する。なお、完成年度後の後任計画としては、本学在籍教員等を充当、または新規採用者を募集していく過程において、年齢構成の適正化を図っていく予定である。
設置計画履行状況調査時  (令和3年)	関西国際大学の既設学科等（現代社会学部総合社会学科）の入学定員超過の改善に努めること  指摘事項（改善）	現代社会学部は令和3年4月に改組を行い、学生募集を停止している	
設置計画履行状況調査時  (令和4年)	定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想を策定し、着実に実行すること。（看護学研究科看護学専攻（D））  指摘事項（改善）	関西国際大学定年規程第2条により、大学教員の定年は65歳と規定されているが、関西国際大学特遇教育職員規程第2条において、教育活動上特に必要と認める者で65歳以上75歳未満の特遇教育職員をおく制度を設けており、完成年度までに満65歳を超える教員についてはこの規程が適用される。本課程開設にあたって、完成年度までに75歳を超える教授はいない。	完成年度までに満65歳を超える教員の再任については、優れた研究業績や教育上の業績がある場合、担当看護領域に的確な後任者がいない場合、その他、該当者の人格・意思・健康状態等を総合的に判断し決定する。なお、完成年度後の後任計画としては、本学在籍教員等を充当、または新規採用者を募集していく過程において、年齢構成の適正化を図っていく予定である。

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <看護学研究科博士後期課程>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

##### ① 実施体制

###### a 委員会の設置状況

高等教育研究開発センターの下に、教育開発部門と初年次教育部門とメディア教育部門が設置されている。各部門にはそれぞれ委員会が設置されており、そこで協議しつつ、教員の資質の維持向上のために取り組んでいる。また、FD及びSD活動はPDとして、教員の資質向上については教育改革委員会が、職員の資質向上については人財育成課が中心となり進めている。

###### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 定例委員会を原則として毎月1回開催し、必要に応じて臨時委員会を開催している。

###### c 委員会の審議事項等

- ・ 学位授与の方針及び教育課程編成の方針に基づいた教育の実施に際して必要な教育方法及び評価方法の開発と普及に関する事項
- ・ 授業のアンケートに関する事項
- ・ シラバスに関する事項
- ・ ルーブリックに関する事項
- ・ PD（FD及びSD）に関する事項
- ・ 卒業研究登録資格認定試験に関する事項

##### ② 実施状況

###### a 実施内容

オンラインでも「学生が学べる」環境を整える

2021年4月にスタートした3キャンパス新体制において、改めて①全学部・学科が本学の教育の特色（「組織的な教育」「重層構造の学生サポートの仕組み」「学修成果の可視化」「アドバイザーとの面談や『ふりかえり』による個別指導・支援」など）を共有することを目指す、また、②コロナ禍の下でも、これらの教育システムに基づいた教育活動が遂行できるように各学科における課題と対応方策を見出すことを目指す。

b 実施方法

- ・ワークショップ、内部教員及び外部講師による研修等

例

- ・学生の状況に関するデータ共有と分析
- ・オンライン・対面での ICT ツールの活用方法／グループワーク手法に関するワーク
- ・特別講演 「まなぶとはたらくをつなぐこと ～キャリア教育の実践から～」 深澤晶久 実践女子大学 学長補佐・教授
- ・講演 「教育DX と『未来の教室』の姿を考える」 浅野大介 経済産業省サービス政策課長・教育産業室長

c 開催状況（教員の参加状況含む）

第1回PD 8月19日・20日

第2回PD 9月16日

第3回PD 2月17日・18日

全てのPDで全教員の90%以上の参加があった。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

神戸山手大学と合併し、3キャンパス体制となり、コロナ対応も含めて、本学の教育実施体制に対する課題について、学部・学科・教員間での共有は図られたと考えている。また、コロナ禍において進展した遠隔授業の方法を用いて、より本学の教育活動を展開する方法等についても共有することができた。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・各学期ごとに中間および期末の授業評価を実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・授業評価アンケートは、結果を集計・分析し、教授会での報告と併せて学内ネットワークで教員や学生に公開している。

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

開設年度であり、達成状況についての総括評価・所見を述べる状況ではないが、今後自己評価委員会にて随時確認していく予定である。

##### ② 自己点検・評価報告書

###### a 公表（予定）時期

・令和4年7月1日 公表

###### b 公表方法

・自己点検・評価報告書を刊行  
・大学ホームページ上に公開予定（令和2年6月末を予定）

##### ③ 認証評価を受ける計画

・令和4年に評価機関（高等教育評価機構）の評価を受けることとしている。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (5) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・  公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・  その他 ( ) ]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。